



2025年3月期 中間期 決算説明

(2024年4月1日～2024年9月30日)

2024年 11月 7日

イバラ食品工業株式会社

1. Ebara Reboot 2026の進捗

■ 代表取締役社長 森村 剛士

2. 2025年3月期 中間決算報告

■ 取締役 栗野 裕

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

エバラ食品グループの長期ビジョン(2024-33年度)

ミッション

- 1 国内/海外における次代の中核を成す多様な人材が育成・登用され、エバラ食品グループが密接に連携したビジネスフォーメーションの実現
- 2 製造体制の変革により、大量生産から多品種少量生産までの対応力UP、液体に加え粉末調味料分野でもビジネス領域を拡大
- 3 自社の技術力、ニッチ&トップ戦略をベースにした健康分野を始めとする新たなビジネス確立と特定領域におけるリーダーカンパニーの地位獲得
- 4 東南アジア地域における自社商品の浸透と、他グローバル地域への拡大
- 5 ICTの利活用を通じた「データ活用型経営」「業務プロセス改革」の実現

2033年度にありたい姿

**おいしさ、たのしさ、あたらしさで
食カテゴリーを創造する企業**

独自性のある商品・サービスで
人々の食生活に貢献し、
社会に必要とされる存在へ

連結
数値目標 EBITDA **60億円水準**
ROE **7%以上**

Final Phase
(2030~2033)
最高益更新

Next Phase
(2027~2029)
新領域開拓
事業成長

First Phase
(2024~2026)
成長への
基盤固め

新中期
経営計画

Ebara Reboot 2026

連結
数値目標

EBITDA(営業利益+減価償却費) **40億円**
海外売上高比率 **5%以上**
総還元性向 **50%以上**

新中期経営計画（2024～2026年度）

新中期 経営計画

Ebara Reboot 2026

重要方針

「売上拡大＝利益獲得」ではなく、
「適正な経営資源投下による売上形成・利益最大化」に取り組む

グループ 基本戦略

1. 既存事業/領域を磨き上げ、高収益化を追求
2. 新市場/新価値創造による新たな成長軌道の確立
3. 従来の枠組みに捉われない経営基盤改革の深化

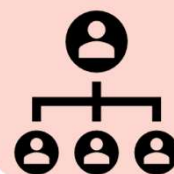
既存事業



新価値創造



人的リソース



ICT化



プロセス改革



連結数値目標

EBITDA 40億円 海外売上高比率 5%以上 総還元性向 50%以上
(営業利益＋減価償却費)

設備投資の進捗について

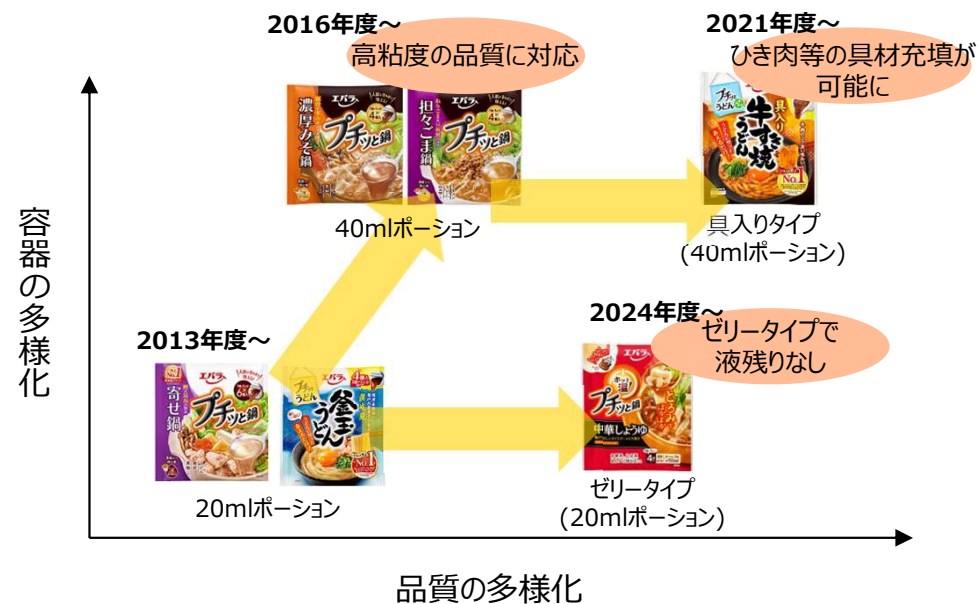
◆津山工場 新ポーションライン



- ✓ 2024年10月稼働開始
- ✓ 2025年度 本格稼働の見込み

ポーション調味料の進化

出荷額も2013年度比 約8倍に伸長



◆タイ工場



- ✓ 2024年8月稼働開始

1. Ebara Reboot 2026の進捗

■ 代表取締役社長 森村 剛士

2. 2025年3月期 中間決算報告

■ 取締役 栗野 裕

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

連結業績

単位：百万円

**前年同期比で増収であるが、売上原価、販管費の増加により減益
計画比では、半期利益が年間計画を超過**

(百万円)	2023.9	2024.9	2023.9 対比		2025.3 計画対比 (2024/5/15開示)		
			増 減	増減率	計 画	未達額	進捗率
売上高	22,035	23,835	1,800	8.2%	46,600	22,764	51.1%
売上原価	13,712 62.2%	15,325 64.3%	1,612 2.1pt	11.8% —			
売上総利益	8,322 37.8%	8,509 35.7%	187 ▲2.1pt	2.3% —			
販管費	6,959 31.6%	7,278 30.5%	318 ▲1.0pt	4.6% —			
営業利益	1,363 6.2%	1,231 5.2%	▲131 ▲1.0pt	▲9.6% —	1,000 2.1%	▲231	123.2%
経常利益	1,486 6.7%	1,272 5.3%	▲213 ▲1.4pt	▲14.4% —	1,100 2.4%	▲172	115.7%
純利益	981 4.5%	848 3.6%	▲133 ▲0.9pt	▲13.6% —	700 1.5%	▲148	121.2%

通期業績予想の修正について (2024/11/7 決算と同時開示) 単位：百万円

中間期までの実績と足元の動向を鑑み、通期業績予想を上方修正

	前回発表予想 (A) 2024/5/15開示	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
売上高	46,600	47,000	400	0.9
営業利益	1,000	1,500	500	50.0
経常利益	1,100	1,500	400	36.4
当期純利益	700	900	200	28.6

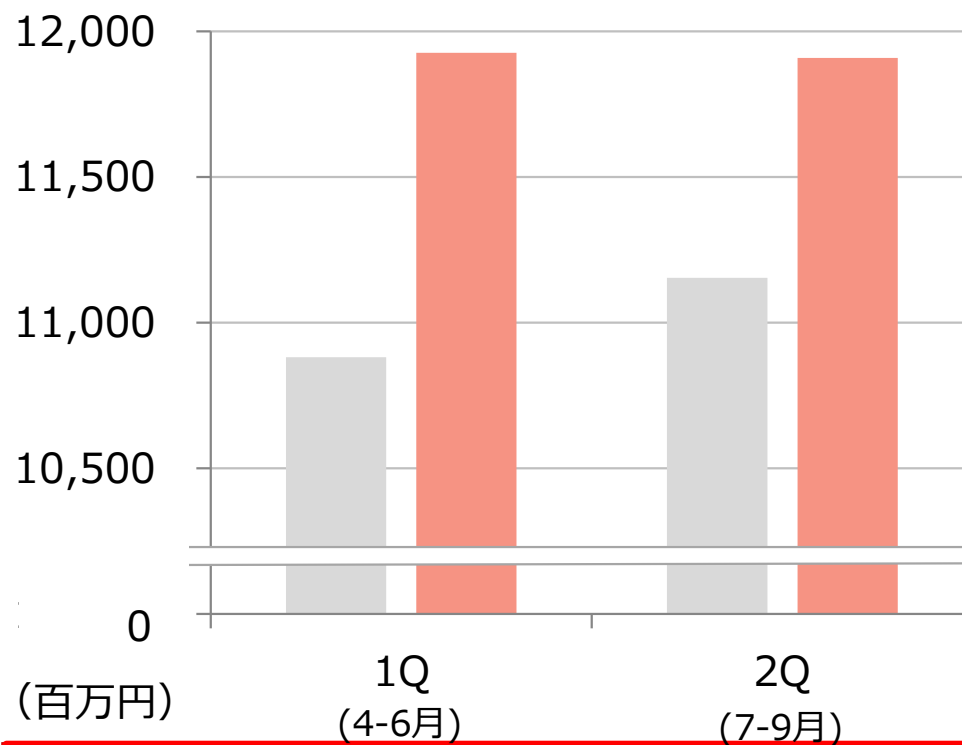
(修正の理由)

価格改定や各種コストの削減効果もあり、利益が期初計画を上回って進捗したため

売上高・営業利益 四半期推移

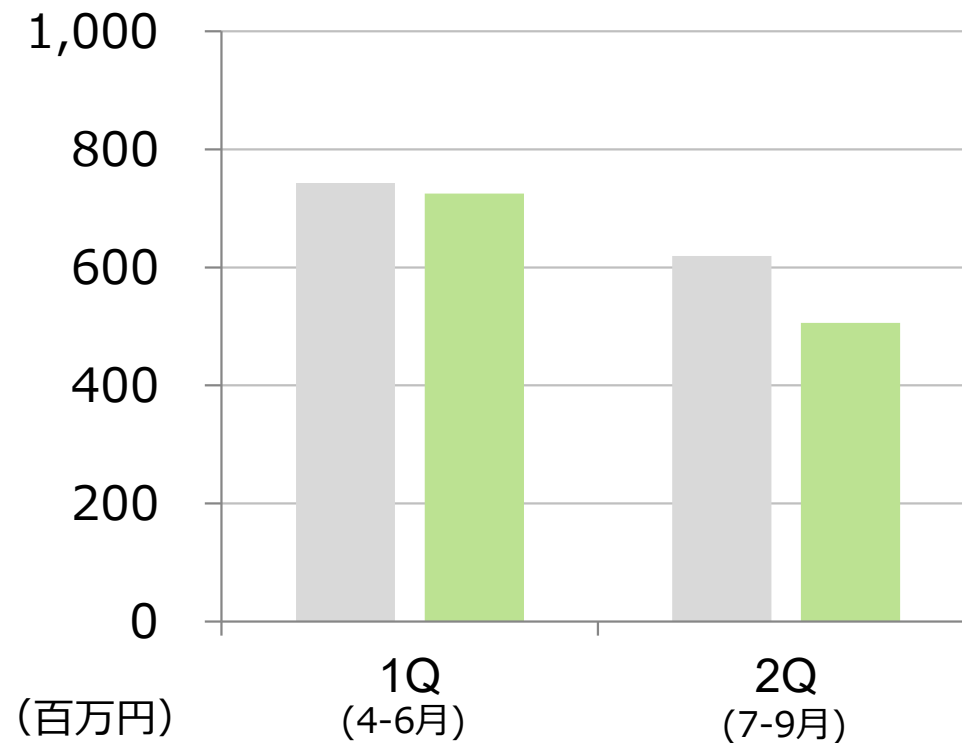
単位：百万円

売上高



2024.9	11,926	11,909
2023.9	10,881	11,154
増 減	1,045	754
増減率	9.6%	6.8%

営業利益



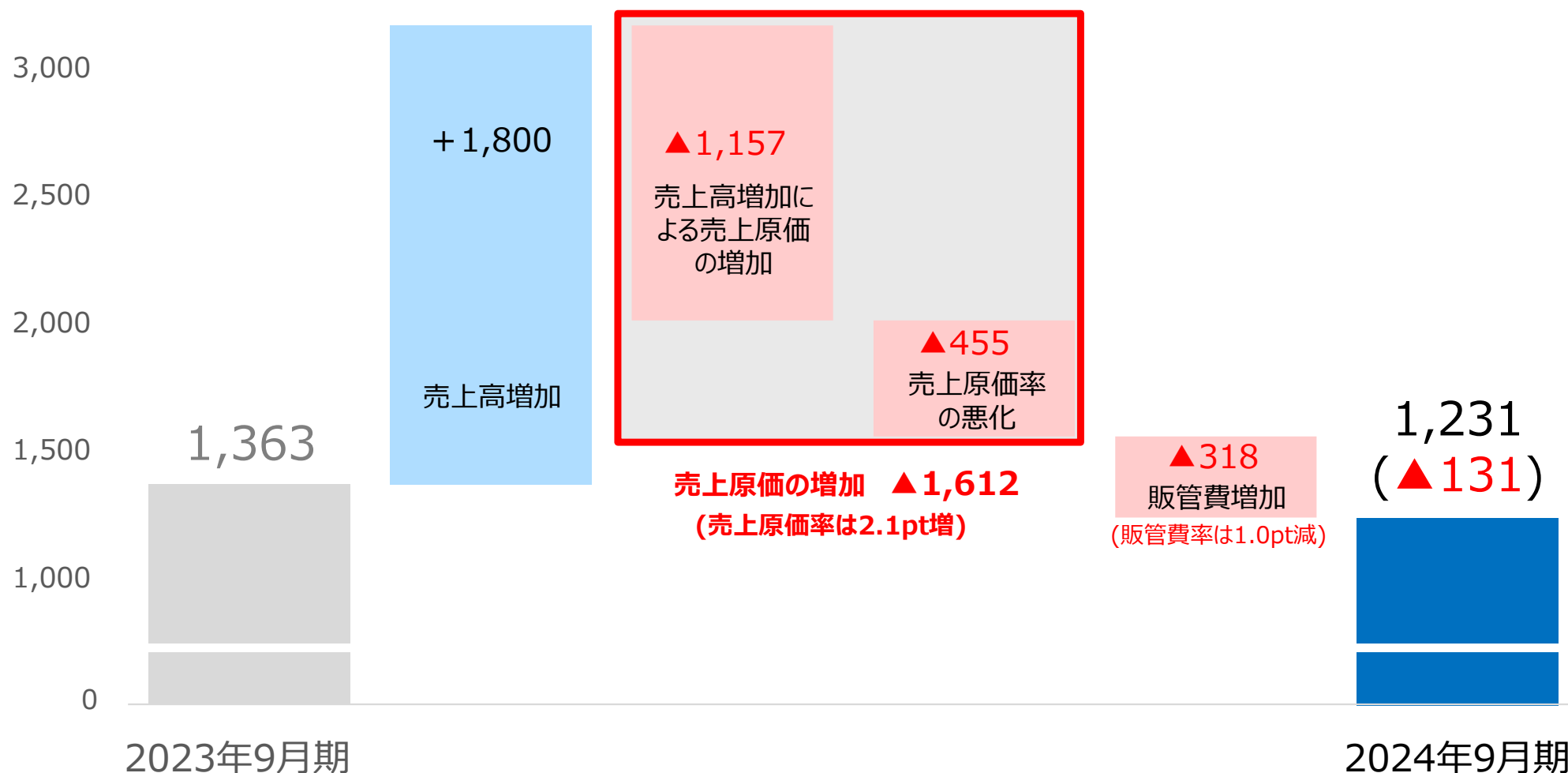
2024.9	725	506
2023.9	743	619
増 減	▲17	▲113
増減率	▲2.4%	▲18.3%

営業利益 増減分析(前年同期比)

増益要因
減益要因

✓ 価格改定に伴う改善はあったものの、**売上原価率の悪化、販管費の増加で利益減**

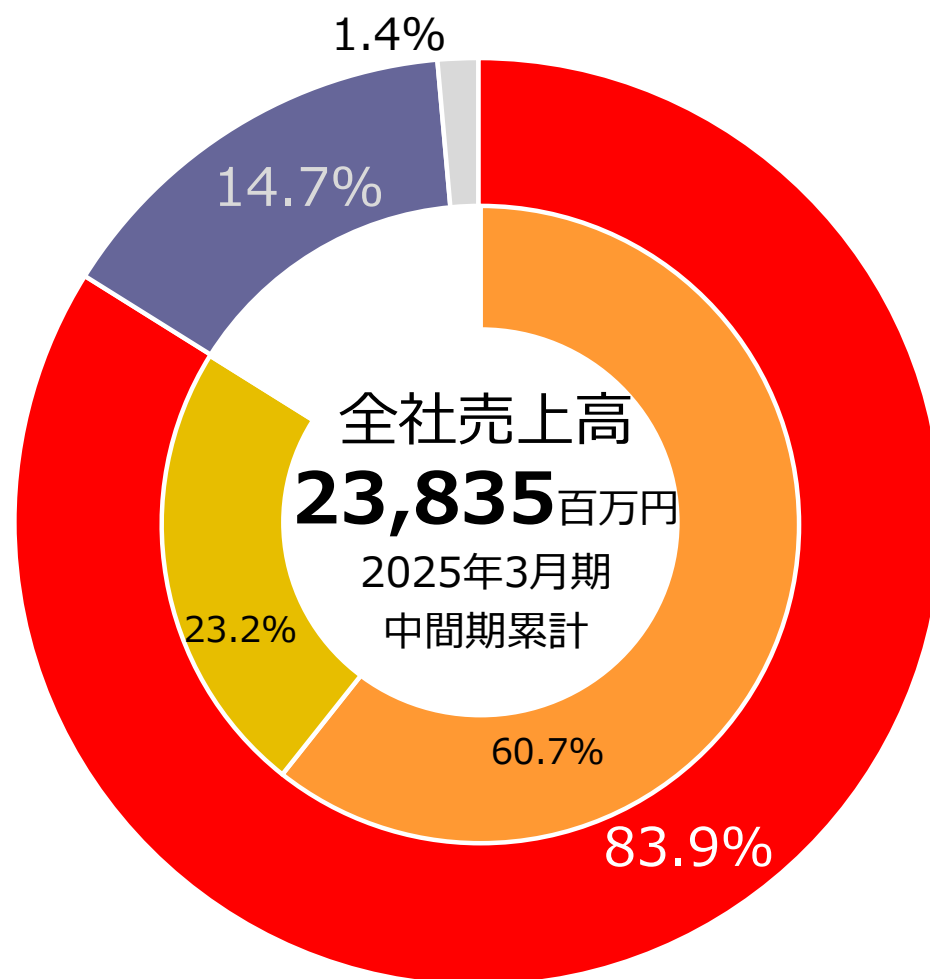
単位：百万円



2025年3月期 中間期 決算報告

セグメント・製品区分別 売上高

セグメント・製品区分別 売上高



食品事業

19,994百万円

(前年同期比 8.3%増)

家庭用商品

14,459百万円

(前年同期比 2.1%増)

業務用商品

5,534百万円

(前年同期比 28.8%増)

物流事業

3,506百万円

(前年同期比 5.7%増)

その他事業

(広告宣伝事業、人材派遣事業)

334百万円

(前年同期比 27.4%増)

セグメント・製品区分別 売上高

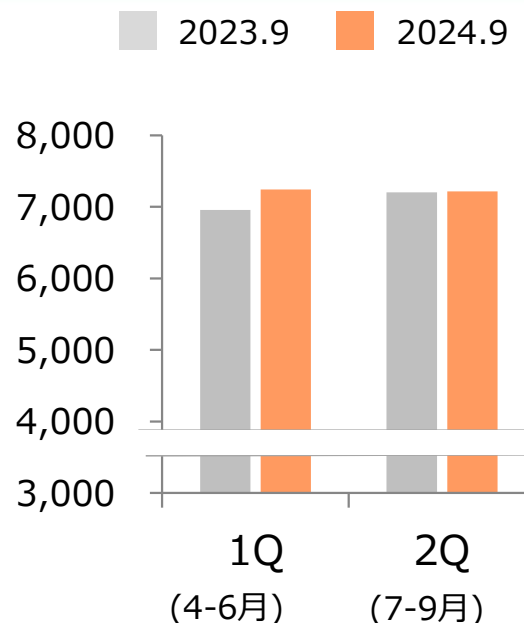
単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

売上高増減率
前年同期比

+2.1%

百万円	中間期 累計売上高
2024.9	14,459
2023.9	14,158
増減	+300



肉まわり、その他調味料群が増収 鍋物、野菜まわり調味料群が減収

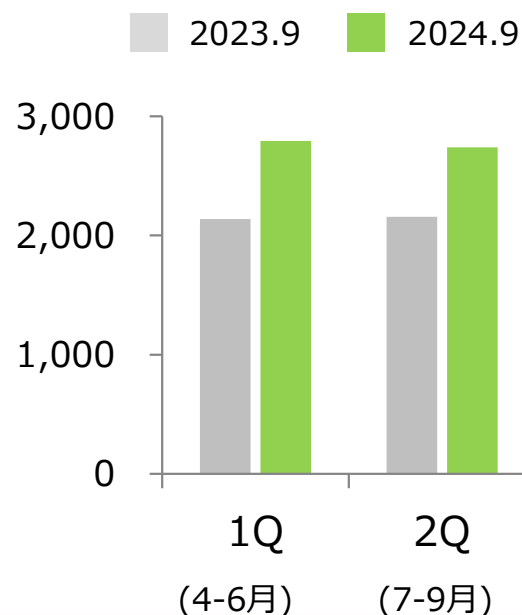
- ・新商品『焼肉ザクだれ』がテレビCM効果もあり好調に推移
- ・鍋物調味料群は、猛暑による秋冬商材への切替時期遅れによる影響を受ける
- ・その他調味料群は、『プチッとうどん』の商品ラインナップ追加による販売好調がけん引

食品事業（業務用商品）

売上高増減率
前年同期比

+28.8%

百万円	中間期 累計売上高
2024.9	5,534
2023.9	4,296
増減	+1,238



肉まわり、スープ、その他群共に増収

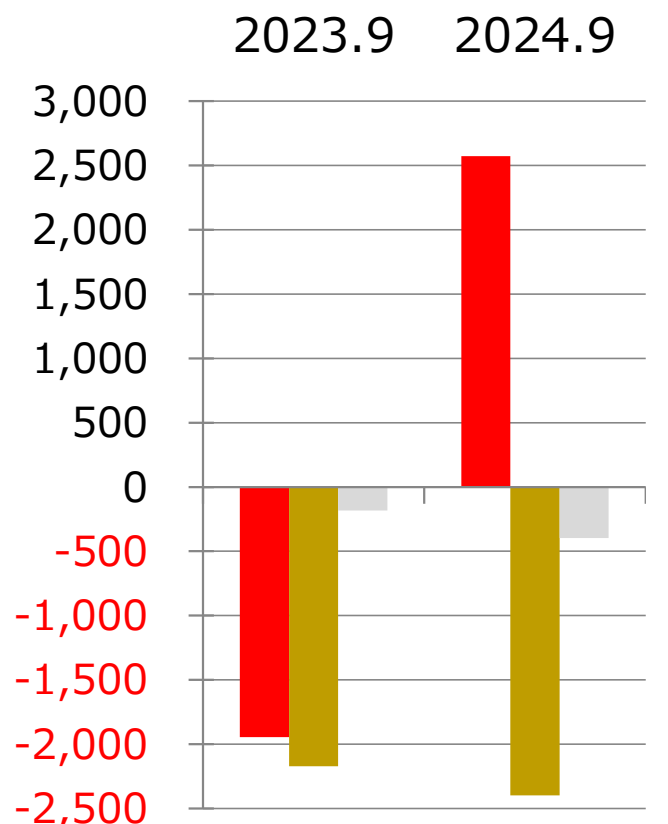
- ・人流増加による外食産業の回復と価格改定が増収に寄与
- ・その他群は丸二の連結開始が寄与
- ・海外事業は為替影響もあり、増収で推移

2025年3月期 中間期 決算報告

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

単位：百万円



	2023.9	2024.9	増 減
営業キャッシュ・フロー	▲1,945	2,573	4,519
投資キャッシュ・フロー	▲2,172	▲2,397	▲225
フリーキャッシュ・フロー	▲4,117	176	4,293
財務キャッシュ・フロー	▲182	▲398	▲215
現金及び現金同等物の 増加額（▲は減少額）	▲4,185	▲150	4,035
現金及び現金同等物の 期末残高	13,404	14,229	824

2024.9

営業CF	税金等調整前四半期純利益	1,269百万円
	減価償却費	580百万円
投資CF	有形固定資産の取得	▲1,604百万円
財務CF	配当金の支払	▲196百万円
	自己株式の取得	▲176百万円

通期業績予想の修正について (2024/11/7 決算と同時開示) 単位：百万円

中間期までの実績と足元の動向を鑑み、通期業績予想を上方修正

	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
売上高	46,600	47,000	400	0.9
営業利益	1,000	1,500	500	50.0
経常利益	1,100	1,500	400	36.4
当期純利益	700	900	200	28.6

(修正の理由)

価格改定や各種コストの削減効果もあり、利益が期初計画を上回って進捗したため

～ 参考資料 ～

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

(百万円)	2023.9	2024.9	増 減	増減率
● 食品事業	18,455	19,994	1,539	8.3%
● 家庭用商品	14,158	14,459	300	2.1%
肉まわり調味料群	6,738	6,877	138	2.1%
鍋物調味料群	3,551	3,473	▲78	▲2.2%
野菜まわり調味料群	1,912	1,807	▲105	▲5.5%
その他群	1,955	2,300	345	17.7%
● 業務用商品	4,296	5,534	1,238	28.8%
肉まわり調味料群	1,554	1,723	168	10.9%
スープ群	1,549	1,689	140	9.1%
その他群	1,193	2,122	929	77.9%
● 物流事業	3,317	3,506	188	5.7%
● その他事業	262	334	71	27.4%
● 合 計	22,035	23,835	1,800	8.2%

セグメント・製品区分別 売上高

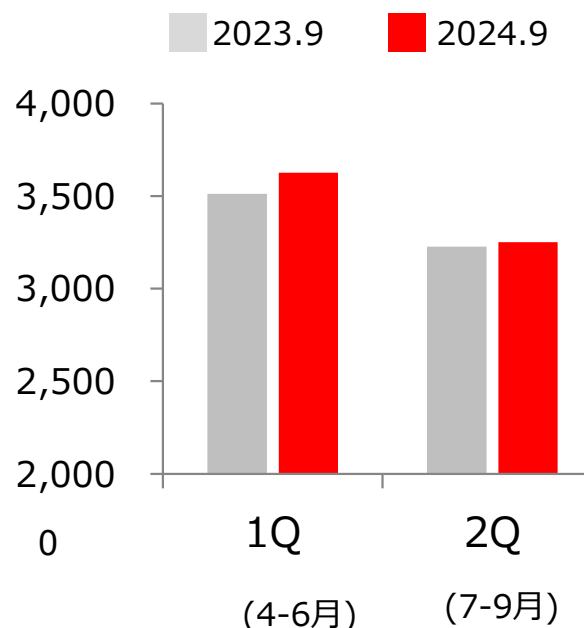
単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

● 肉まわり調味料群

売上構成比 **28.9%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2024.9	6,877
2023.9	6,738
増減	+138



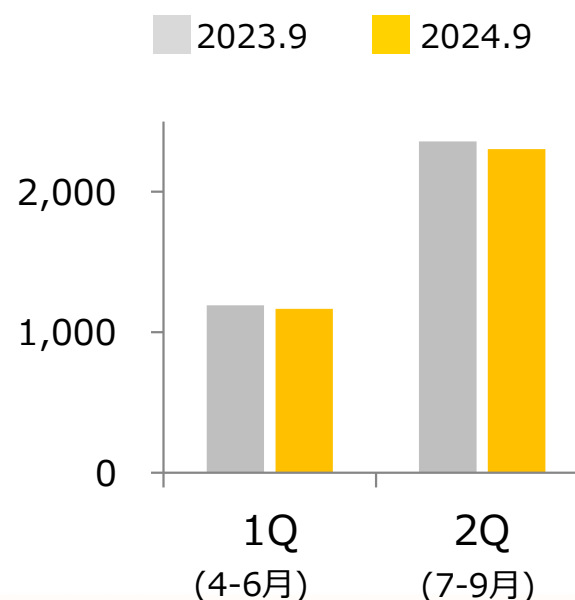
『焼肉ザクだれ 塩だれガーリック』に加え、当期8月に「旨辛ガーリック」を発売し、売上伸長



● 鍋物調味料群

売上構成比 **14.6%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2024.9	3,473
2023.9	3,551
増減	▲78



『すき焼のたれ』『プチッと鍋』が価格改定後も堅調に推移するも猛暑による秋冬商材への切替時期遅れにより減収



セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

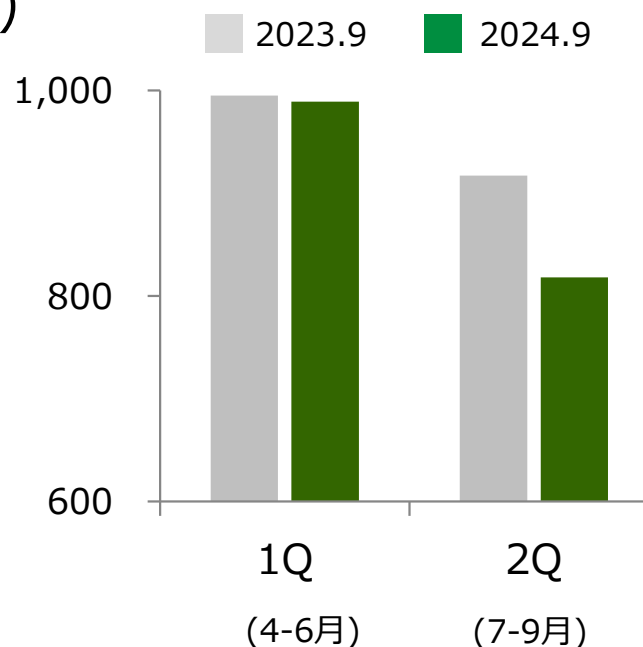
食品事業（家庭用商品）

● 野菜まわり調味料群

売上構成比 **7.6%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2024.9	1,807
2023.9	1,912

増減 **▲105**



『浅漬けの素』の販売低調により減収

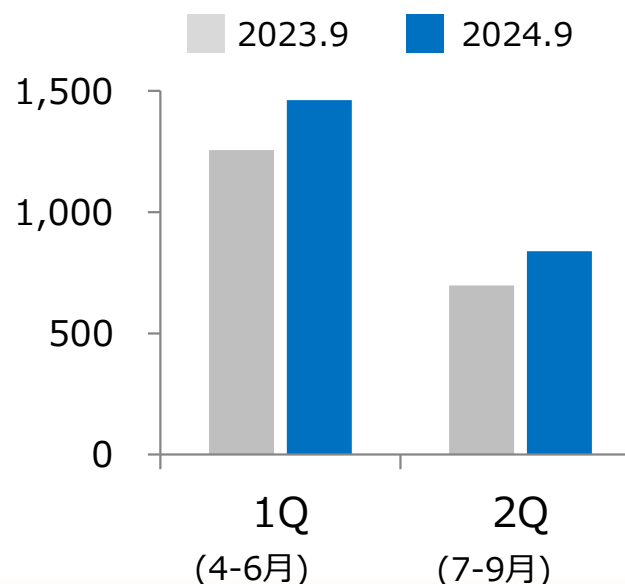


● その他群

売上構成比 **9.7%**

(百万円)	中間期 累計売上高
2024.9	2,300
2023.9	1,955

増減 **+345**



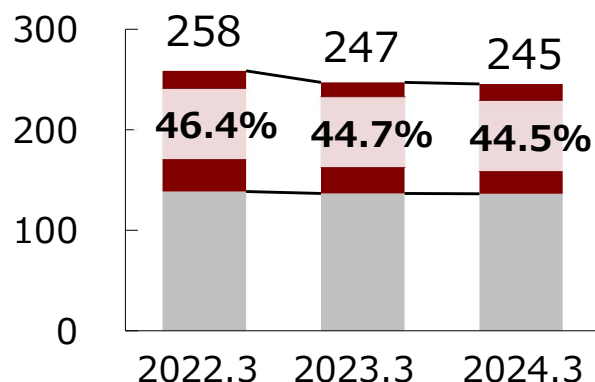
『プチッうどん』は商品ラインアップ追加、猛暑長期化に合わせ安定供給したことが奏功



〔参考資料〕 市場規模と当社シェア

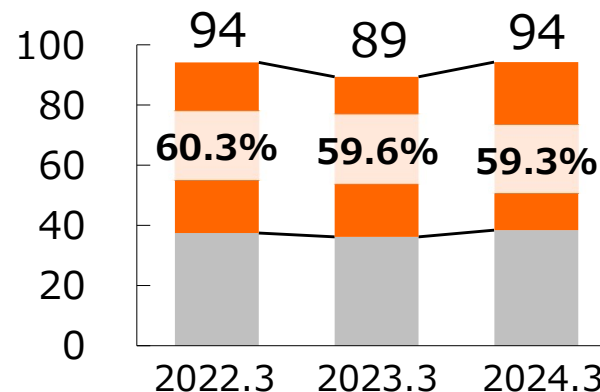
焼肉のたれ

■ 当社シェア (億円)



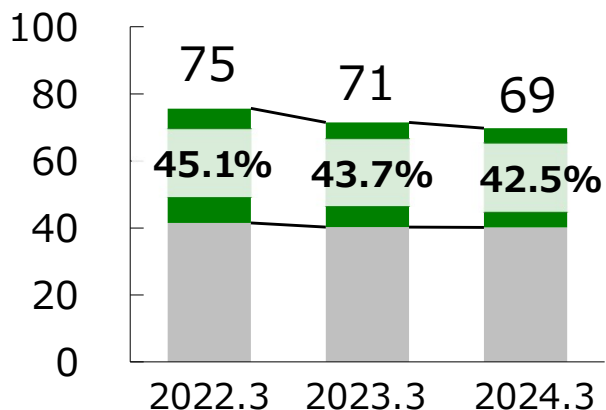
すき焼のたれ

■ 当社シェア (億円)



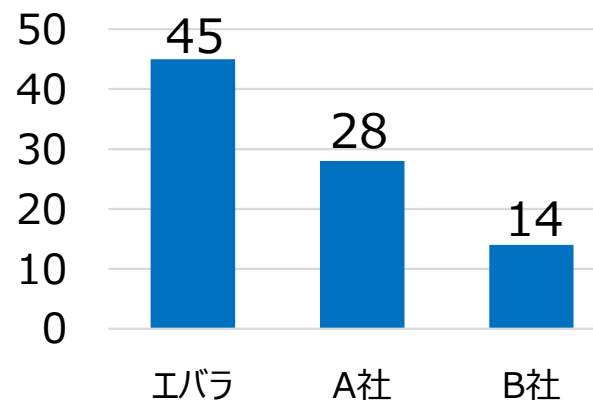
浅漬けの素

■ 当社シェア (億円)



プチッと鍋(個食鍋)

■ 個食鍋の売上比較 (億円)



〔参考資料〕 会社概要

商 号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目4番5号
代 表 者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資 本 金	13億8,713万円
設 立	1958年（昭和33年） 5月
従業員数	【連結】839名 【単体】507名 （2024年3月末時点）
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー & コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 丸二株式会社 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台灣荏原食品股份有限公司 EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.
持分法適用会社	株式会社スギショーテクニカルフーズ

〔参考資料〕 沿革①

1958年	5月	荏原食品株式会社 設立
1968年	1月	『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
	3月	『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
	7月	エバラ食品工業株式会社に商号変更
1970年	4月	テレビCM 開始
1978年	6月	『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
1980年	7月	群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
1984年	4月	栃木工場（栃木県さくら市）稼働
	11月	宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
1990年	5月	株式会社エバラ物流を設立
1994年	4月	津山工場（岡山県津山市）稼働
2003年	11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年	9月	株式会社サンリバティー横浜（人材派遣業）を子会社化
	12月	ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
2005年	4月	荏原食品（上海）有限公司を設立
2011年	6月	チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
2012年	11月	荏原食品香港有限公司を設立
2013年	11月	東京証券取引所市場第二部に市場変更
2014年	4月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティー横浜を吸収合併
	5月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー＆コミュニケーションズに商号変更
	5月	本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
	12月	東京証券取引所市場第一部に指定

〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台灣荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	1月	株式会社スギショーテクニカルフーズの株式を取得
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.を設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の株式を取得
2023年	10月	丸二株式会社の株式を取得

免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第 1 位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：広報IR部（TEL 045-226-0240）